

令和 6 年度 第 2 回 静岡市史跡小島陣屋跡整備委員会 会議録

1 開催日時 令和 7 年 3 月 6 日（木）13 時 30 分から 16 時

2 開催場所 史跡小島陣屋跡、小島町自治会館

3 出席者 坂野委員、禰宜田委員、前田委員、三浦委員、
松永委員、渡邊委員

＜事務局＞大村課長、小泉埋蔵文化財係長

武内主任主事、毛利主任主事

4 傍聴者 なし

5 会議内容

（1）開会

（2）議事

○報告 1 静岡市指定有形文化財「小島陣屋御殿 書院」名称変更について（資料 4）
（事務局）

書院が市指定有形文化財で、変更前の「小島藩御殿建物」という名称が建物の性格を正確に表していないことから変更の審議を前回行いました。整備委員会で「小島陣屋御殿 書院」という名称の提案をいただき、その後、静岡市文化財保護審議会に諮問を行いました。静岡市文化財保護審議会にて、提案した名称が妥当であるという判断をいただき、承認されました。令和 6 年の 12 月 27 日付で名称変更を行っております。

（禰宜田委員）

名称変更に伴い案内板等の変更や修正が必要になると思いますが、何か所くらいで、いつ頃変更されますか。

（事務局）

案内板等は今後史跡整備工事の中で新規設置になります。内容は今後、整備委員会で審議をお願いすることになります。案内用のリーフレットは、名称変更後のもので内容改訂を行っています。

◎報告 史跡東側石垣・確認調査について

(資料5)

今年度実施した東側急傾斜地安全対策工事に合わせて、史跡東側斜面に残る石垣の裏埋め等の状況を確認するために、令和6年7月23日、10月21日から22日の2回に分けて確認調査を実施しました。(以降、資料内容の説明)

(禰宜田委員)

資料の図では95区の4層がどこまで残ったかがわかりません。報告書ではこのあたりを明確に書いてください。また、3層が遺構として切り込んだ形になっていますが、4層が1層の下まで続いているのでしょうか。

(事務局)

95区の土層断面図の右側に「S」という表記をしていますが、石が出ていて、そこより手前を深堀しています。石の下には、3層がまだ続いていると想定をしています。4層の上面で調査は止めていますので、図を訂正します。

(禰宜田委員)

検出面は一点鎖線がルールなので対応ください。同じく96区も左に2層があって、その下にa層があって、さらに右側に3層が入るかと思います。この2層とa層の下は調査が終わっているのでしょうか。ただし、これは層の境界線ではないということですね。

(事務局)

そうです。任意のラインで止めています。

(禰宜田委員)

3層とa層、4層とb層がきれいに一点で4つに分割されていますが、こういう形で図面提示されると理解が難しいので、堆積の順にトレースすることにより説明ができるかたちにしていただきたいと思います。

◎報告 御殿書院完成記念イベントについて

(資料6)

(事務局) 資料内容の説明

(坂野委員)

静岡大学の地域創造学環の方がされた「小島陣屋の未来を考えよう」というのは、結果をまとめたものがありますか。

(事務局)

模造紙の写真を撮って、保存をしています。

(禰冨田委員)

事務局の説明で50代以上が多いという話がありましたが、文化財関係のイベントでは50代以上しか来ないことが多い中であって、10代から40代が約20%来場しています。これは評価できると思います。また、小島陣屋を知っていた方が来場者の約80%いますが、認知度の高さについて分析はされていますか。

併せて、春風亭昇太師匠がいらっしゃるからイベントに来るという理由が圧倒的に多いかと思いましたが、完成した書院を見たかったという理由が36%で1番多いという結果でした。この結果を見ると、小島陣屋に関心のある方々が世代を超えて参加されていて、そういう方々は潜在的にこの地域の中、あるいは静岡市内にいるということかと思えます。

(事務局)

小島地区の方の関心が高く、町内での情報共有もされていました。若年層に関しては地域学習等で取り上げてもらっているので、地域の中での知名度は高いと考えています。また、アンケートの中で、「歴史スポットや文化財に興味がある」と回答した方に対して「具体的にどういったものが好きか」という質問があり、お城が好きな方が圧倒的に多かった印象があります。

(禰冨田委員)

やはりお城関係の文化財はそういった注目を集めやすいと思います。注力をされていくべきものかと思えます。他の国指定史跡でもなかなかここまでの認知度には至っていません。

◎報告 来年度以降の整備スケジュール

(資料7)

(事務局) 資料内容の説明

◎議題 公開・活用プランについて

(資料3)

(事務局)

資料内容の説明

特に審議いただきたいのが、10 ページ目の取り組み方針についてです。その内容及びこの他に必要な方針、その優先順位等についてご意見をお願いします。

(禰宜田委員)

このプランの完成はいつでしょうか。また、どのような形で公表されますか。

(事務局)

プランの前期が令和 7 年度から始まるため、今年度中の完成を目指します。また、法定計画ではなく、あくまでも公開と活用に関する具体的な行動を示すものなので、公表は考えていません。庁内及び関係者での共有を予定しています。

(禰宜田委員)

6 ページのような書き方では教育委員会は何もやっていないように見えますが、これまでにやってきたことを記載していただきたいと思います。あわせて現状と課題と改善策まで記載が必要かと思います。

また、目標来場者数を年間 7000 人とありますが、人数以外の目標を設定する必要があるかと思います。人数だけの目標では、達成できなかった時に「達成できなかった」事実を批判される可能性があります。文化財においては人数だけで計れないものもあります。小島陣屋は地域に守る会という団体があり、イベントのアンケート結果でもわかるとおり、これまで質の高い積み重ねがされていると思います。そういった部分の今後のためにも目標は二本柱にする必要があると思います。整備基本計画を策定した際には恐らく大きな問題になっていなかった人口減少社会という問題が顕著になっているからです。そういった社会情勢の前提を記載したうえで、人口減少社会の中でも様々な取組をやっていくのだということを明言する必要があるかと思います。

また、ポンチ絵も必要です。一目見てわかるものを作成してください。

（三浦委員）

小島陣屋の認知度が低い理由は城ではないからです。江戸時代の大名が 300 でしたが、城を持つ大名が 150、城のない陣屋大名が半分でした。しかし、陣屋が何かということを多くの人には知りません。現在、日本の陣屋はほとんどが無くなってしまいました。建物などが最も残っているのが兵庫県の柏原陣屋で御殿が残っています。石高も大きいです。他にも建物が残っている陣屋は幾つか全国に見られます。陣屋というのは一般的には単郭で長方形の敷地がひとつだけあり、石垣はないのが通常です。

幕府の規制により、一般的な陣屋がどういったものかを示したうえで、小島陣屋は石垣を築いていたり、3 段の曲輪にしていたりという努力が見られる陣屋だということを伝えていくといいと思います。さらにこの陣屋を造ったのが 1 万石の藩であったということも併せて伝えていきたいです。まずは全国の城郭ファンに伝えるのがいいかと思います。江戸時代にいた大名の半分は陣屋で、小島陣屋はそのなかでも代表的なものだということをはっきりと発信してください。発信の仕方が難しいと思いますが、ネットを使うこともひとつですし、地元の方々の熱意が非常に高いので、地元で様々なイベントをやって、全国から人が集まって注目をしてもらいたいと思います。地元の方の励みになり、郷土の誇りになります。「陣屋といえば小島」と思っただけのように。

石垣と建物があり、陣屋の敷地がほぼ無傷で全部残っているというところはほぼありません。そういった意味で考えると、非常に重要です。まずはアピールが大切です。

（前田委員長）

活用をしていくなかで、石垣や御殿が残っているというのはありますが、それだけでは素材として十分ではないと思います。小島陣屋に対する理解を深めてもらうためには、素朴な質問に答えられるようにしていただきたいです。例えば、「藩主はここでもんな暮らしをしていたのか」、「この建物に普段は何人いたのか」、「お付きの者はどこにいたのか」など。そういったことに思いを馳せて、考えていくことが大事だと思うので、生活が想像できるようなものが必要かと思います。

また、文献上は「陣屋」という文言は明治以降に出てきます。江戸期は「お屋敷」、「お役所」と言っていました。小島陣屋は役所の機能を持っていたので、小島藩領の

藩政を行う場所です。米を扱い、裁判をしたと思います。ただ藩主がいたというだけでなく、藩政の中心であったことを示していただきたいと思います。まだそれらの資料が十分ありませんが、皆で注目して解明していくという提案もあっていいと思います。

（三浦委員）

静岡県内にある掛川城二の丸御殿と比べるとどれくらいの大きさなのかという比較をしてもいいと思います。小島陣屋の御殿は小規模ですが、小さいながらも機能を満たすように工夫をしています。城郭ファンを取り込むというよりは、新たに陣屋ファンを作るくらいの大きな気持ちで取り組むのがいいと思います。

（事務局）

現在の三つ折のパンフレットでは掲載できる情報量が限られますが、三浦委員のご提案を反映するためには、情報量の多い別のパンフレットを作成する必要があると思います。検討いたします。

（坂野委員）

ファンブックのようなものを作って、先ほど三浦委員が仰った内容はもちろん、小島陣屋に思い入れのある方に「ここが自慢だ」というのも書いてもらい売ってはどうかと思います。小島藩がどう在ったのかというところ、小島陣屋が誰のものでどう使われていたのか、転封後の紆余曲折を経て、地域の方に身近に使われながら、今ここに復原されたというのも一つかと思います。

価値が何かというのを知っていただくために来ていただくという面もあると思います。来訪者数が1番測りやすいので目標設定はこうなるのはわかりますが、何のために来ていただくかというところに繋がる形で来場を促す必要があるかと思います。

取組方針ですが、方針2だけが公開・活用プランとして少し異質な感じがしました。また、具体的にこれから始まっていく中で、これを誰がやるのかというのを明示していただきたいと思います。やる人によって、やれることややりたいことが変わるので、その整理は必要だと思います。小島陣屋に関しては守る会が重要な位置を占めていて、守る会がやりたい、こうしていきたいというのが重要なので、それが盛り込まれているかが気になります。

(事務局)

具体的な施策の表の右側に取組主体を記載しております。このプランは守る会にも共有する必要があると思っており、将来的には地域の方が主体になって、小島陣屋の公開、活用、保存を実施していただくのが理想だと考えています。しかし、急にこのプランを地域主体でやってもらうのは難しいと思っており、市と地域が一緒にやっていきながら将来的に主体になっていただくという時間が必要だと考えます。

(三浦委員)

取組方針2については「保護活動」とするのではなく、「文化財の保存と活用」とすると思います。これから守る会の方には「守る」だけでなく、小島陣屋がどうやれば活性化されるかという部分で、その活動主体を担っていただくとしたほうがいいと思います。

(松永委員)

私は専門的な意見ではありませんが、素人からすると、小島陣屋は殺風景に感じます。イメージが膨らみません。

(三浦委員)

ここには藩士の屋敷もたくさんあり、ここで生活をしていました。そうしたイメージが湧くような工夫は必要かと思います。これから作る案内板が重要になってきます。

(松永委員)

ホームページで例えば「整備でこうなります」という鳥観図ではなく、より立体的なCGなどを載せてもいいのではと思います。

(事務局)

今後のハード整備の中でも制約になっていますが、小島陣屋は発掘調査で建物の配置がわかっていたり、一部復元できたりする部分はありますが、建物自体の構造、柱の石よりも上の部分に関しては、ほとんど資料がありません。復元をしようにも不明確な部分が多いという状況があります。例えば宝蔵や大手門に関しては、平面的な表示は発掘調査成果から可能ですが、実際に建物を復元するのは現状難しいです。

できる範囲で三浦先生や前田先生からご提案いただいたようなイメージのものを作成し、来場者の方に提示するのが精いっぱいの方法になるかと思います。

(三浦委員)

将来こうなるといふのをCGなどで示すのはほぼ不可能かと思ひます。小島陣屋の構造を示す現時点の唯一の資料が藩士が描いた小島陣屋図です。しかしそれも転封後50年経過してから描いているので、うろ覚えであると描いた方が仰っています。発掘調査で礎石が全て出てきていけば良いのですが、それも出ていないのでよくわかっていません。他の史跡だと発掘された礎石等で平面表示をしますが、それも難しいくらいです。そのため、ハードでこれ以上何かをするのは無理だと思ひます。

しかし、例えばスマホでかざすと今建っている書院の続きが映されるという技術もあります。これはバーチャルなので、かなり想像が入っていてもでたらめでなければいいと思ひます。それくらいのものでしたら、作れるのではと思ひます。それに対して文化庁の補助金もあります。それができると陣屋の中はどういうものだったか、どういふ暮らしをしていたかといふのが、おそらく日本で初めて唯一分かるようになると思ひます。

(松永委員)

陣屋に行くまでの導入看板も必要かと思ひます。また、小島藩の再現みたいなものもできればいいのではないかと思ふのですが、いかがでしょうか。

(坂野委員)

小島陣屋のファンクラブのようなものを作るのはいいかと思ひます。小島陣屋を好きな人を増やしていく手立てのひとつとして考へてはいかがでしょうか。ファンクラブの集いをしたら、人が集まるというのはいディアの一つとしてあります。

(禰宜田委員)

取組方針の2つ目ですが、「定着」といふのが「上から目線」のようにみられるのではないかと思ひます。「地域で守る小島陣屋跡の機運の醸成」といった表現はいかがでしょうか。これはプランの前期なので、今まで出たアイデアを地域の方と一緒に楽しくやっていき、後期でこれを定着といふのを目指すのがいいかと思ひます。

また、取組方針3で、「文化財の在り方と観光の両立」とありますが、小島陣屋にすぐ多くの人がかかるといふのは、なかなかないのではと思ひます。そう考へると観光資源として考へるといふのを、このプランに書いてしまつていいのかといふところがあります。「観光資源としての可能性を探る」といった表現でいいのではないかと思ひ

ます。今の記載だと観光を強く意識したように受け取られてしまいます。

また、取組主体の欄ですが、「住民」と「地域団体」とありますが、この違いがわかりません。地域団体と住民は一緒にしてもいいのではないのでしょうか。こういった細かな役割分担が今の段階でできるのかという疑問があります。

これまでの話を聞いている限りでは、ストーリー作りなどは委員長や渡辺委員と相談して整備委員会の委員と一緒に作るというのがいいのではないかと思います。

（前田委員長）

教員向けの見学会ですが、教員が引率していくというのは、小学校などはそうだと思いますが、中学や高校では課題研究というのがあります。自分たちで課題を設定して、それに対する問題解決をするというのがあります。正解がない、色んな意見を皆から求めるというものです。その中で企業とコラボして、解決していこうというのがあります。協力いただける企業も様々で、新聞社、建設会社、食品会社、運送会社などがあります。企業の若手の方と生徒がどう地域振興をしていくかという議論を交わしますが、子どもたちの柔軟な発想はすごく面白く、様々なアイデアが出てきます。企業の製品や情報を調べて、これとこれを繋げられないかという意見も出ます。小島陣屋もただ見学して終わりではなく、是非そういった課題研究の地域振興の材料として扱っていただきたいと思います。

（禰宜田委員）

今のお話を伺うと、取組方針の（３）は地域振興のほうがいいかもしれません。ご検討ください。

（事務局）

いただいた意見をもとに年度内にはこれを反映した形で皆様に改めてお送りできればと思います。よろしくお願いします。

～終了～